



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、株式会社成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『成「幸」学』（講談社）、『あなたの人格以上は売れない』（プレジデント社）、『出過ぎる杭は打ちにくい』（サンマーク出版）、『面白くなくちゃ人生じゃない』（ロングセラーズ）、『リセット人生・再起動マニュアル』（ワニブックス）、『小説・球磨川』（上下巻・ワニブックス）などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ！———人生・農業リセット再出発 140

改善士

物 事の進め方には鉄則がある。彫刻だと、目は小さく、鼻は大きく彫り始める。目は大きく彫ると後から小さくできない。

「週刊ダイヤモンド」の交流会で私が乾杯のスピーチを頼まれ、「ハッター8割、ウソ2割、合わせて10割、全部やればホンマモン！」とぶち上げたところ、温厚でこやかな青年と知り合った。それから半年後、テレビ番組の『情熱大陸』で彼が取り上げられているのを見たときには驚いた。

たった4日間で40億円を削減する改善の国際専門家。10年間で総額1兆円分の公共事業の改善に乗り出し、コスト削減総額2,000億円を実現させた業界屈指のコンサルタント。

こうした実績が評判を呼び、全国から問い合わせが殺到。今や約6カ月待ちの状況だという。

1964年に京都で生まれた横田尚哉^{ひさや}さん。大学で土木工学を学び、就職。個別の設計より国づくりが大事と自分を国土と位置づけ、やがて改善士と銘打って独立する。

彼は言う。

「『なぜ？』と過去を5回も問いながら問題の原因とカイゼンを追究していくトヨタ方式などの過去思考は、後ろを見ながらこぐボートと同じで、水面に残る航跡だけが進路の判断基準になります。いわば原因と結果論の前例主義で、既存の枠組みや発想から抜け出せず、これからの世界の潮流についていけなくなりますね。それに比べ前を見ながらこぐカヌーは過去と関係なく、目標設定や最短距離を自在かつ身軽に組み直せる未来“志向”といえます」

「なぜ？」の発想は、改善はできても新しいものは生まれない過去の再現化である。これが「何のため？」の発想であれば、目標達成の本質である自由で無限

な未来志向となる。

前例や実績、記録やルールに頼るトレンド思考は、「1+1=2」であると理屈でしか理解しようとしにくい左脳に似ている。反対に、ゼロベース思考は、過去はゼロにリセットしてこだわらず、現在を出発点として未来に新しい可能性と理想を描いて挑戦する。そして、イメージした願望をかなえさせる自動操縦の潜在意識は全能の右脳人間となる。

彼の方法論は、目指す先が明示される右脳の直観イメージのガイドライン思考であり、一挙手一投足を指示した左脳の理屈マニュアル思考では不測の事態に直面したときに役に立たないとみている。

また、彼は目標達成に役立つものだけが活きた情報であり、それ以外はただの知識だという。これはルーズベルト大統領が発した成功法則、「できる、できないは考えないで、0.5秒で手を挙げることに、その後どうすればできるかを考えればよい」に似ている。

日常はこうである。25分間は他のことを一切しないで仕事に集中し、5分間の休憩を取るワンセット仕事術のポモドーロ・テクニックをはじめ、毎朝4時に起床し、3時間集中して仕事、8時には家を出て喫茶店で仕事、会社への到着は11時、夕方5時には仕事を切り上げ、夜8時以降はオフに切り替える。メールは5秒以内に返信するそうだ。

30年後の子供たちのため、輝く未来を遺したいという信念。ノウハウを潔く公開する改善士。思考テクノロジーをきわめる国土である、若き精鋭に心から声援を送りたい。

「近くを見る者は貧し、遠くを図る者は富する」（二宮尊徳）